

2022年2月25日  
経済産業省  
産業技術環境局  
国際標準課

経済産業省では、令和4年度産業標準化推進事業委託費（戦略的国際標準化加速事業：産業基盤分野に係る国際標準開発活動）の受託者選定に当たって、企画競争に付することの可能性について、以下の通り調査いたします。

つきましては、下記1. 事業内容に記載する内容・条件において、的確な事業遂行が可能であり、かつ、当該事業の受託者を決定するに当たり企画競争を実施した場合、参加する意思を有する方は、別添1登録様式に記入の上、5. 提出先までご登録をお願いします。

## 1. 事業内容

### (1) 概要

第4次産業革命の時代を迎え、新たなルール形成を通じた市場開拓・拡大やイノベーションの社会実装のため、標準化の戦略的な推進が極めて重要になっています。

このため本事業では、産業基盤分野（産業横断的に使用されるマネジメントシステム、試験方法、用語・図記号等、我が国の優れた技術・製品等のユーザにおける適正な評価・選択を可能とする試験方法等）について、国際標準原案の開発・提案、国際標準化戦略に関する調査研究、JIS開発等を行います。

### (2) 事業の具体的内容

本事業は3年間の実施を予定しており、令和4年度は、国際標準開発活動（※）及びJIS開発等の委託事業として、産業基盤分野における我が国の社会・産業基盤の整備・強化に資する標準化テーマについて、国際標準開発、JIS開発等を担う組織を適切に評価・編成の上、それらを総合的かつ効率的に行います。

令和4年度の実施事項は未定ですが、電子商取引、案内用図記号、電気技術用語・図記号といった分野のテーマを実施する予定です。なお、過去3年間における年間の実施テーマ数は80件程度です。

加えて、JIS開発・制定に必要な、事前調査、様式調整、5年見直し調査、法令への引用状況調査、問合せ内容調査を行います。

(※) 国際標準化活動には、ISO・IEC と協調・リエゾン関係にある国際機関、地域機関、フォーラム等の組織を通じた ISO・IEC の国際標準化活動を含む。なお、ISO・IEC と協調・リエゾン関係にある組織としては、例えば、OIML（国際法定計量機関）、UNECE（国連欧州経済委員会）、CIGRE（国際大電力システム会議）、IEEE（米国電気電子学会）、CIE（国際照明委員会）、VAMAS（新材料及び標準に関するベルサイユプロジェクト）、GEN（欧州標準化委員会）、GENELEC（欧州電気標準化委員会）等。

### (3) 事業期間

契約締結日から令和5年3月31日まで（予定）

### (4) 事業実施条件

次の要件を満たす企業・団体等とします。

- ① 本事業に関する委託契約を経済産業省との間で直接締結でき、かつ、日本に拠点を有していること。なお、以下の i～iv を全て満たすと認められる場合には、国外企業等（国外の企業、国外の大学又は国外の研究機関をいう。以下同じ。）との連携により実施することができるものとする。
  - i. プロジェクトの円滑かつ効率的な遂行において、当該国外企業等の参加が不可欠又は合理的であり、その参加により日本の経済活性化に貢献が期待できること。
  - ii. 意図しない技術漏洩・流出を起こさないように、適切な技術管理・知的財産管理の体制整備等がなされていること。
  - iii. 法令を遵守すること。
  - iv. 予算執行上の手続きに円滑に応じられること。
- ② 本事業を的確に遂行する組織、人員等を有していること。
- ③ 本事業を円滑に遂行するために必要な経営基盤を有し、かつ、資金等について十分な管理能力を有していること。
- ④ 複数の者で共同提案するときは、事業全体の企画立案や運営管理等を行う能力や体制を有する統括者（統括機関）を定めること。
- ⑤ 規格案の作成に際しては、特定企業の利益のみならず、我が国産業界の意見を集約すること。
- ⑥ 事業目的を着実に達成するため、国からの委託事業終了後も規格の制定又は改正等の段階までフォローアップできること。
- ⑦ 予算決算及び会計令第70条及び第71条の規定に該当しないものであること。
- ⑧ 経済産業省からの補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている者ではないこと。

- ⑨ 過去3年以内に情報管理の不備を理由に経済産業省との契約を解除されている者ではないこと。
- ⑩ 産業の基盤となる標準化（※）をはじめとした、特定の業界団体では対応が困難な国際標準開発（新市場創造型標準化制度を含む）に関して、中立的な立場で国内の関係業界・利害関係者を糾合・意見調整し、国外の標準化機関との合意形成を行う調整能力を有する人員を有すること。
- （※）電子商取引、案内用図記号、電気技術用語・図記号 等
- ⑪ 産業の基盤となる標準化をはじめとした、特定の業界団体では対応が困難な JIS 開発（新市場創造型標準化制度を含む）に関して、中立的な立場で関係業界・利害関係者の糾合・意見調整が可能な人員を有するとともに、JIS 開発・制定に必要な、事前調査、様式調整、5年見直し調査、法令への引用状況調査、問合せ内容調査（JIS 横断的推進活動）が可能な人員を有すること。

なお、コンソーシアム形式による申請も認めますが、その場合は幹事法人を決めていただくとともに、幹事法人が事業提案書を提出して下さい。（ただし、幹事法人が業務の全てを他の法人に再委託することはできません。）

## 2. 説明会の開催

以下日時に「Microsoft Teams」を用いて行うので、5. に対し連絡先（社名、担当者氏名、電話番号、メールアドレス）を令和4年3月3日（木） 17時00分までに登録してください。（事前にテスト連絡をさせていただく場合があります。）「Microsoft Teams」が利用できない場合は、概要を共有するのでその旨を連絡するとともに連絡先を登録してください。

●説明会開催日時：令和4年3月7日（月） 14時00分

## 3. 参加資格

- ・ 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条及び第71条の規定に該当しない者であること。

なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であって、契約締結のために必要な同意を得ている者は、予決令第70条中、特別の理由がある場合に該当する。

- ・ 経済産業省からの補助金交付等停止措置又は指名停止措置が講じられている者ではないこと。
- ・ 過去3年以内に情報管理の不備を理由に経済産業省との契約を解除されている者ではないこと。

#### 4. 留意事項

- ・登録後、必要に応じ事業実施計画等の概要を聴取する場合があります。
  - ・本件への登録に当たっての費用は事業者負担になります。
  - ・本調査の依頼は、入札等を実施する可能性を確認するための手段であり、契約に関する意図や意味を持つものではありません。
  - ・提供された情報は省内で閲覧しますが、事業者に断りなく省外に配布することはありません。
  - ・提供された情報、資料は返却いたしません。
  - ・契約を行う場合、委託事業の事務処理・経理処理につきましては、経済産業省の作成する委託事業事務処理マニュアルに従って処理していただきます。
  - ・契約を行う場合、委託事業の事務処理・経理処理等につきましては、更に以下の事項について対応を頂く必要があります。
    - ①事業の実施に当たっては、事業全体の企画及び立案並びに根幹に関わる執行管理について、再委託（委託業務の一部を第三者に委託することをいい、請負その他委託の形式を問わない。以下同じ。）を行うことはできません。
    - ②総額に対する再委託の割合が50%を超えないか。超える場合は、相当な理由があるか理由書の提出を求めます。なお提案書等において再委託費率が50%を超える理由書を添付した場合は、経済産業省で再委託内容の適切性などの確認を行い、落札者に対して、契約締結までに履行体制を含め再委託内容の見直しを指示する場合があります。

なお、本事業は再委託費率が高くなる傾向となる事業類型には該当しないため、個別事業の事情に応じて適切性を確認します。
- <事業類型>
- I. 多数の事業者を管理し、その成果を取りまとめる事業  
(主に海外法人等を活用した標準化や実証事業の取りまとめ事業)
  - II. 現地・現場での作業に要する工数の割合が高い事業  
(主に海外の展示会出展支援やシステム開発事業)
  - III. 多数の事業者の協力が必要となるオープン・イノベーション事業  
(主に特定分野における専門性が極めて高い事業)
- ③委託費を不正に使用した疑いがある場合には、経済産業省より落札者に対し必要に応じて現地調査等を実施します。また、事業に係る取引先（再委託先、外注（請負）先以降も含む）に対しても、必要に応じ現地

調査等を実施するため、あらかじめ落札者から取引先に対して現地調査が可能となるよう措置を講じていただきます。

調査の結果、不正行為が認められたときは、当該委託事業に係る契約の取消を行うとともに、経済産業省から新たな補助金の交付と契約の締結を一定期間（最大36ヵ月）行わないこと等の措置を執るとともに当該事業者の名称及び不正の内容を公表します。

具体的な措置要領は、以下のURLの通りになります。

[https://www.meti.go.jp/information\\_2/publicoffer/shimeiteishi.html](https://www.meti.go.jp/information_2/publicoffer/shimeiteishi.html)

- ・ 契約を行う場合、契約締結前までに①情報管理に対する社内規則等（社内規則がない場合は代わりとなるもの。）、②各業務従事者の氏名、所属、役職、業務経験、その他略歴（学歴、職歴、専門的知識その他の知見、母語及び外国語能力、国籍等）、③情報取扱者名簿及び情報管理体制図（別添2）の提出を求め、適切な情報管理体制が確保されているかを確認します。

#### 5. 提出先・問合せ先

〒100-8901 東京都千代田区霞が関1-3-1  
経済産業省 産業技術環境局 国際標準課 梶田、大西 宛て  
TEL 03-3501-9277  
E-mail [kokusai-hyoujun@meti.go.jp](mailto:kokusai-hyoujun@meti.go.jp)

※郵送またはE-mailにてご提出願います。

#### 6. 提出期限

令和4年3月28日（月）17:00

※複数者からの登録があった場合、その時点で入札可能性調査を終了し、企画競争を実施することがあります。

(別 添 1)

(様 式)

年 月 日

入札可能性調査 登録用紙

事業者名

住 所 : \_\_\_\_\_

商号又は名称 : \_\_\_\_\_

代表者氏名 : \_\_\_\_\_

連絡先

TEL :

E-mail :

担当者名 :

公募要領に示された事業内容、事業実施条件等について熟読し、承知の上、登録致します。

(別添2)

情報取扱者名簿及び情報管理体制図

①情報取扱者名簿

		氏名	個人住所	生年月日	所属部署	役職	パスポート 番号及び国籍 (※4)
情報管理責任者(※1)	A						
情報取扱管理者(※2)	B						
	C						
業務従事者(※3)	D						
	E						
再委託先	F						

(※1) 受託事業者としての情報取扱の全ての責任を有する者。必ず明記すること。

(※2) 本事業の遂行にあたって主に保護すべき情報を取り扱う者ではないが、本事業の進捗状況などの管理を行うもので、保護すべき情報を取り扱う可能性のある者。

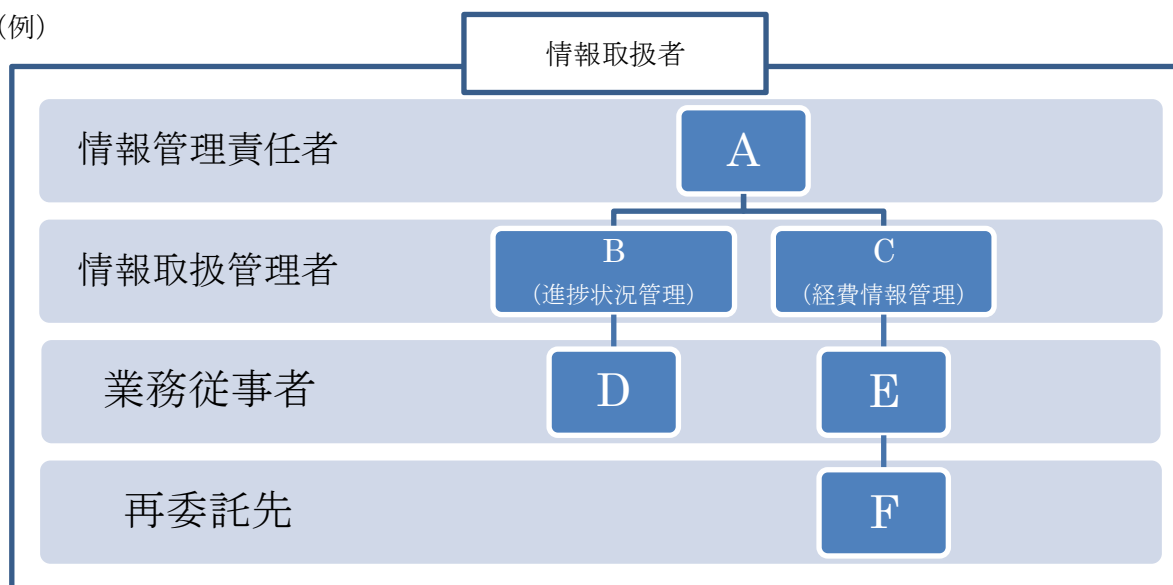
(※3) 本事業の遂行にあたって保護すべき情報を取り扱う可能性のある者。

(※4) 日本国籍を有する者及び法務大臣から永住の許可を受けた者(入管特例法の「特別永住者」を除く。)以外の者は、パスポート番号等及び国籍を記載。

(※5) 住所、生年月日については、必ずしも契約前に提出することを要しないが、その場合であっても担当課室から求められた場合は速やかに提出すること。

②情報管理体制図

(例)



**【情報管理体制図に記載すべき事項】**

- 本事業の遂行にあたって保護すべき情報を取り扱う全ての者。(再委託先も含む。)
- 本事業の遂行のため最低限必要な範囲で情報取扱者を設定し記載すること。